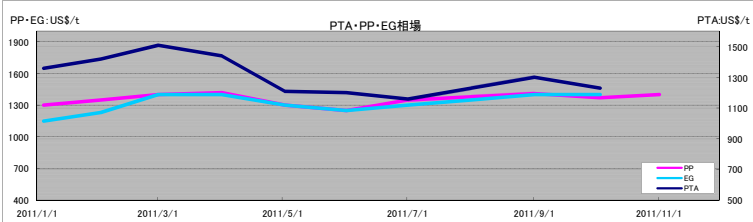


●11月終盤迄の動き 10月31日の本邦円売り米ドル買いの通貨介入直後の流れを受け@78.30円/\$レベルで11月をスタート。1日は介入警戒感が残る中、一時@79円/\$丁度(期間中高値)に米ドルが買われるも、ギリシャ懸念に基づくリスク回避の動きが根強く、@78円/\$台前半で序盤は推移する。月中盤はソリリスクの伊/西への拡大懸念のリスク回避の流れに押され18日には@76.58円/\$(期間中安値)の円高水準に米ドルが売られた。その後は比較的良好的な指標が続くことでユーロでの米ドル高のクロス円の影響等から徐々に米ドル高に振れ、月終盤は@77円/\$台後半での小動きとなり、月末現在は@77.60円/\$付近の値動きとなる。

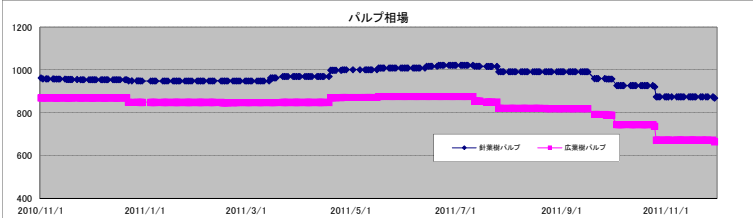
●今後の展開 10月から続く欧州債務懸念は材料がかなり出尽くしと見るが、今後のソリリスクを判断する上で、格付会社のアナウンスも気になる所。(大統領選が視野に入り政治リスクはあるもの)米経済指標は比較的順調な推移を見せ、ユーロの不甲斐無さを鑑みても、米ドルは、やや買われ易い状況ではあるが、殊の外、対円で大きな値上りよりは、本邦押し上げ介入が無い限り、限定的と考える。また、12月はファンドの再仕込みの思惑的な動きも想定され、瞬間的な乱高下も散見されると見込む。12月の具体的なレンジは前半@77.50~78.50円/\$、後半@77.75~79.50円/\$を予想します。



主要石化製品の2011年10月生産実績

石油化学工業協会がまとめた主要石油化学製品18品目の2011年10月生産実績は、MMAモノマー、EO、EG、AN、S BR、BRなどの7品目が前年同月比プラス。LDPE(低密度ポリエチレン)、PP、PS、SM、PVC(塩ビ樹脂)、VCM(塩ビモノマー)、ベンゼン、トルエンなどの10品目で前年同月比マイナスとなった。前月比では、LDPE、HDPE(高密度ポリエチレン)、PP、PS、SM、EO、EG、AN、BR、ベンゼン、トルエンなどの16品目がプラス、MMAモノマーのみがマイナスとなった。

エチレン生産量は55万7,200トンと前年同月比では13.2%減少。前月比では4.2%増加となった。

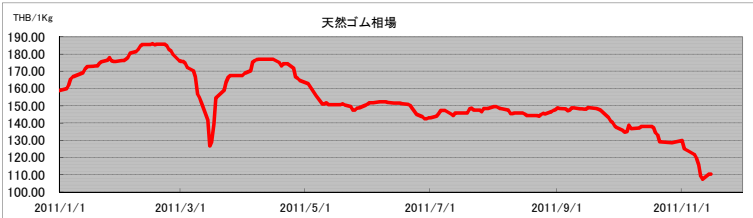


北米針葉樹パルプ相場 北米市場への10月パルプ出荷は弱レレベルにとどまりました。PPPC統計によると、9月比19%ダウン、前年同月比10%のダウンになっています。10か月累計でのデリバリーは合計6%ダウンです。紙及び紙ボードの生産ダウンが見られています。契約価格よりもスポット価格の方が下回る状況が続いています。直近で変化はないものの市況はUSD920/トンとなっています。

欧州針葉樹パルプ相場 PPPC統計の結果が出て予想通り生産者在庫の上昇が見られました。軟木では1日分、硬木では2日分です。この下落は欧州消費者在庫及び港湾在庫の下落により調整されています。一方で消費者在庫は17万トン下落し、19日分となりました。港湾在庫は10万トン下落しました。平均値を保っています。市況はUSD869.92/トンとなっています。

中国広葉樹パルプ相場 9月比出荷は下落。昨年10月比3%多く、堅調です。累計出荷は2.8%程度上昇しました。その上昇の内容は東欧、日本以外のアジア、アフリカ、及びオセアニアです。市況はUSD665.19/トン程度です。

中国広葉樹パルプ相場 中国バイヤーの購入意欲は戻りつつあり、11月中旬/下旬には大量の購入に入るとは思われます。中小のバイヤーの中には信用の問題も若干残っており、しかし大手バイヤーや商社のビジネスはさぶる良いです。ローカル市場分析によると、パルプ購入バイヤーの中には輸入の高い木から自社の安い木に切り替える動きも出てきています。WRIによると硬木の価格は2011年に入って14%上昇しています。市況はUSD572.76/トンで、RMB3650.14/トン程度となっています。



タイ洪水の影響で売り加速

自動車のタイヤに使用する天然ゴムの高値調整色が鮮明となっている。欧州の財政不安を背景とした投資家のリスク回避に巻き込まれた格好だが、追い打ちをかけたのがタイの大規模洪水である。日本の自動車関連メーカーが集積するタイの生産が減少し、原材料需要が落ち込むとの連想が売りを加速させている。

タイのゴム相場は11月11日には107.50円/バツまで下落しており、1ヶ月前の約20%、ピーク時の今年2月と比較すると40%以上のダウンとなっている。価格が110円/バツを切るのは2010年6月以来と約1年半ぶりである。

主産国のタイで洪水が発生した直後、生産減を見込んだ個人投資家らの買い付けで天然ゴム相場は一時上昇したが、タイの産地は中部から南部が中心。洪水の影響が大きかったのは北部だったため、影響は殆ど出ず、自動車生産が停滞したことにより、天然ゴムの需要にブレーキが掛かっているのが現状である。

ゴム価格の下落を受け、南部14県の天然ゴム生産者、商社、政府当局代表は、生産量を25%抑制することで合意した。樹液採取日をピーク時の月間20日から15日に減らす。出荷量を落とすことで値下がり食い止める、価格安定に繋げるのが彼らの狙いである。

不織布トピックス

ユニ・チャーム パルプを使わない新吸収体を使った大人用紙おむつを開発、このほど販売を開始した。

ユニ・チャームは施設や病院など業務用に新しい新吸収体を使った大人用紙おむつを開発し、このほど販売を開始した。

「ラフリー リハビリイトハンズ」と名付けられた新しい最大の特徴は、業界で初めて開発された、パルプを使わず不織布と高吸水性樹脂(SAP)だけで構成される極薄の吸収体が使われている。SAPと不織布だけで構成された新しい吸収体の厚さはわずか1mm。高齢者により自立した生活を送る介護サービスの強化が求められる点に着目し、動きやすくて厚さの薄い動きが妨げられないような、そして付けた時の違和感が感じられないような、使う人目線の工夫した製品となった。サイズはSからLLまで4種類を展開する。値段は一枚あたり60円と既存のものより割高になるが、市場は機能性が優れたものを求める傾向があるため、潜在ニーズは高いと思われる。

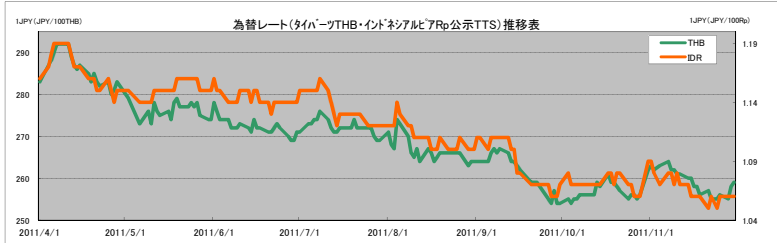
施設・病院といった業務用のおむつ市場は年間約3%の伸びが続いていて、ユニ・チャームのシェアは2割とみられる。近年はユニ・チャームがニーズに合わせた新製品の積極的な市場投入が受け入れられ、競合しているリブド社との首位争いが一歩抜けて出そうとしている。スーパーやドラッグストアなどの一般販路では大人用おむつで半分以上のシェアを持つユニ・チャームが、業務用のおむつの市場にもテコ入れする事で、ますます存在感を出そうとしている。

海外トピックス

中国 不動産 下落の波及が ~ 業者の強気一変 本土からマネー流出~

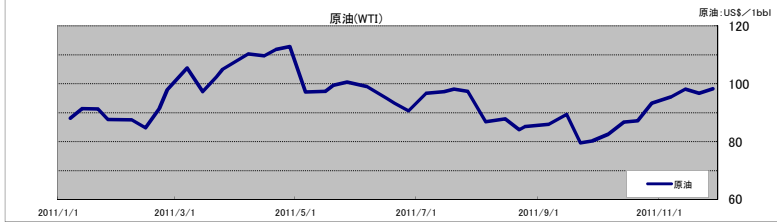
「すぐ決めてくれる物件オーナーに掛け合っている。多分1~2割は下げられるよ」上海市内の住宅街、古北地区にある不動産仲介会社。若い決断を相手マンション画のマンション物件を説明しながら20代の若い営業マンがこやかに説明した。上京の住宅物件は投資が多い。特に隣接する浙江省の中小企業オーナーが多く保有している。手前までは物件一辺倒だった仲介業者が来店客にいきなり値引き提案するのは金融引き締めオーナーたちの本業の資金繰りが苦しい。しかし前回は金融引き締めと成長減速で不動産取引が一気に縮小、値引きして売れず不動産開発会社の資金繰りが急進悪化した。株式からの撤退も顕著で上海総合指数も4月の高値から2割強下げた。国内で行き場を失ったマネーは資本規制をいかに外に染み出していく、その多くが戻り込む香港では不動産大手の高價家が2割強下げた。12月1日に11日、香港・新界地区の高級マンション(盛世)を香港と広東省深圳で同時に販売。香港で中国本土からの来訪者を得ただけでなく、本土に安心感から投資を呼び込む。長江実業地産投資の郭子威取締役は「中国本土客と香港客を区別しないのは我々の方向だ」と言う。本土客も安心して買える仕組みを整え、計1536戸のうち、15%を本土客が購入すると読む。香港の不動産大手、恒隆地産の陳啓宗会長は「合法、非合法にかかわらず、香港の高級住宅物件には中国の資金が入ってくる」と話す。マネーは海も渡る。四川省成都に住む40代経営者は成都市内を中心に保有する物件をすべて売却し、オーストラリア・シドニー近郊に高級マンションを購入、中国と海外で資産を入れ替えた。兼業は投資専業として移住する予定だが、「割高なのを売って割安なものを買えるのは投資の定石。今は中国の不動産を売って海外物件を買えば好都合」と話す。全米不動産協会によると、中国人による10年4月~11年3月の米国での住宅購入額は70億ドルを超える。国別ではメキシコを抜き、カナダに次いで2位に浮上した。中国からのマネーの流出が続けば中国国内の景気が冷えかねない。金融引き締め策の転換を求め声が静かに広がっている。

●本誌の記事・内容に関して、誤り等存在する場合がありますので、あくまでご参考の資料としてご利用頂きますと大変有難く存じます。
●本誌のデータは各種公表数字を基に作成しております。

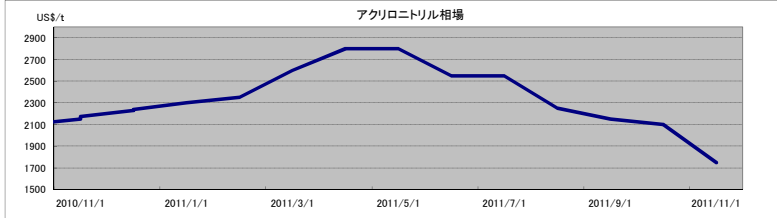


●タイバー相場 @30.65THB/\$近辺で11月をスタート。洪水被害は一時的との中銀総裁の発言を受け@30.50THB/\$近辺(期間中高値)にバーが買われるも、欧州懸念による世界的リスク回避姿勢に連れ、徐々にバーが売られる展開に推移。特にアジア通貨は欧州金融機関からの投資資金の流入も大きかっただけに、ドル資金調達に伴う投資抑制効果の影響は如実に顕れ、24日には@31.43THB/\$ (期間中安値)に下落した。月末現在は同日実施された0.25%の利下げ(市場予想通り)の効果もあり、@30.80THB/\$台後半の推移となる。12月は、洪水被害の織り込み過ぎた反動や欧州の資金調達難の解消効果等を鑑み、バーが買われ易い展開を予想も、ワリリスクの話題によるリスク回避の動きには要注意。レンジは@30.00~31.25THB/\$を予想する。

●インドネシア7Rp相場 @850Rp/\$水準で11月をスタート。一時的な介入警戒感により@8.830Rp/\$ (期間中高値)に買われるも、基本的には一時的な介入警戒感等から、徐々にRpも売られる展開。15日には@9,000Rp/\$を突破し、更に仏国通貨引下げ懸念が発生すると一時的にリスク回避が進み、また北ア特有の月末の米ドル買入需のタラシと重なったこともあり、@9,240Rp/\$ (期間中安値)にRpが売られる展開となる。月末現在は@9,100Rp/\$近辺での推移となる。12月は、一時的な介入警戒感のやや後退により、Rpのやや巻き戻しを予想。但し、最近の相場は懸念材料に強く反応する傾向もあり、やや荒みの展開を予想。具体的レンジは@8,600~9,150Rp/\$を予想します。

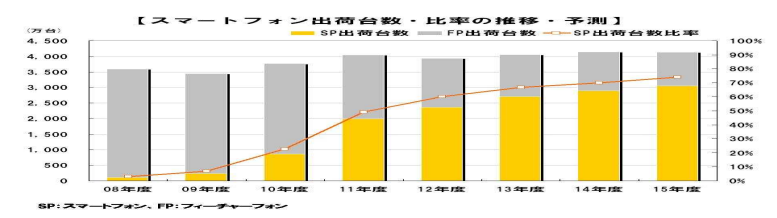


原油市況は、油種によって動きが事なつた。ブレント原油は8月以降、1バレル=110ドル前後を中心に推移したが、上値はやや下がっている。WTI原油は、10月上旬にかけて一時75ドル前後まで下がったが、その後は100ドル台まで大幅に上昇している。一方バイ原油は、対イラン制裁が原油取引に及ぶ可能性が意識され、11月は上昇気味に推移し、ブレント原油との価格差がほぼゼロとなった。先物市場における投機筋のポジションをみると、10月上旬にかけて縮小したが、その後は拡大に転じ商業筋を含めた先物の全建玉残高は、5月10日におおる週にピークを付け、11月にかけて減少傾向が続いている。なお、10月末にMFグローバルが破綻し、取引口座の清算が進められたことも建てる玉減少の一因になった可能性がある。当面、イラン原油の供給減などが意識されるものの、リビアをはじめ各地での供給増が見込まれ、2012年に原油需給はやや緩和すると見込まれる。来年半ばにかけて、WTI原油は90ドル前後、ブレント原油は100ドルを下回る程度まで下落すると予測される。



旭化成ケミカルズは、PTT(タイ石油公社)および丸紅との合併によりタイのマブアットを進めているAN(アクリロニトリル)/MMA(メチルタタクリレート)プラントについて、2011年末までに本格稼働させる見込み。現在は「試運転の最終段階を行っている」(同社)状態という。

同プロジェクトは、3社合併により2006年に設立した「PTT旭ケミカル」(旭化成ケミカルズ48.5%/PTT48.5%/丸紅3%出資)を通じて行っている。世界で初めて商業規模によるプロパノール法を採用したAN年産20万トン設備と、ACH(アセチレン/アクリロニトリル)法によるMM A7万5,000トン設備で構成された。2008年に着工した。その後、隣隣性による環境訴訟「マブアット問題」により工事計画が延期されるなど紆余曲折があり、完成が今年に持ち越された。



スマートフォン市場規模の推移・予測

2011年度の携帯電話出荷台数は前年比16%増の4,050万台となり、2007年度の5,076万台以来4年ぶりとなる4,000万台を超え見込まれる。2012年度は3,940万台と減少するが、2013年度:4,055万台、2014年度:4,145万台、2015年度:4,130万台となり、今後は4,000万台規模での推移が続くと予測する。

2010年度に本格化したスマートフォン出荷台数は前年比に更に加速していくこと、2015年度に発売されることと見込まれるLTE対応スマートフォンや、ディスプレイやプロセッサ(CPU)性能の向上など、ネットワークの高速度とハードの性能進化が買い替え需要を喚起すると分析した。

■2011年度のスマートフォン出荷台数は1,986万台、2015年度には3,056万台と予測

2010年度のスマートフォン出荷台数は前年比3.7倍の855万台で総出荷台数に対するスマートフォン出荷台数比率は22.7%となった。2011年度は前年比2.3倍の1,986万台で総出荷台数の49.0%を占めると予測する。2012年度は3,677万台で総出荷台数の60.1%となり、単年度の出荷台数では初めてスマートフォンが過半数を超えると予測する。その後も2013年度(66.7%)、2014年度(66.7%)、2015年度(69.9%)、2015年度:3,056万台(74.0%)と拡大傾向が続くと予測する。

家電トピックス

プラズマ、風前の灯 国内メーカー生産大幅縮小、TV「家電の王様」終焉

プラズマテレビが絶頂に立たされていた。プラズマテレビ世界トップのパナソニックが生産体制の大規模縮小を表明したことで、同社からパナソニックを受け継いだ日立製作所やライバルの韓国勢への影響も避けられない。

●革新型液晶に完結

プラズマテレビは、液晶テレビのようにバックライトを使わず「自発光方式」で、暗い環境での黒の表現力が優れているのが特徴だ。国内では、1996年に富士通からパネル供給を受けた富士通が世界で初めて42型の家庭用プラズマテレビを発売し、NEC、ハイオクなども製造した。当時42型以上の大型に特化しており、小型を展開する液晶と差別化が図られてきた。2000年代に入り、プラズマの開発競争はさらに激化する。パナソニック、東芝、日立製作所などが相次いで参入し、02年のサッカーワールドカップで大型テレビの需要が高まったことも追い風となった。だが、01年に三星電子がプラズマテレビの生産から撤退し、02年にサムスン電子が撤退し、03年にサムスン電子が撤退し、04年にサムスン電子が撤退し、05年にサムスン電子が撤退し、06年にサムスン電子が撤退し、07年にサムスン電子が撤退し、08年にサムスン電子が撤退し、09年にサムスン電子が撤退し、10年にサムスン電子が撤退し、11年にサムスン電子が撤退し、12年にサムスン電子が撤退し、13年にサムスン電子が撤退し、14年にサムスン電子が撤退し、15年にサムスン電子が撤退し、16年にサムスン電子が撤退し、17年にサムスン電子が撤退し、18年にサムスン電子が撤退し、19年にサムスン電子が撤退し、20年にサムスン電子が撤退し、21年にサムスン電子が撤退し、22年にサムスン電子が撤退し、23年にサムスン電子が撤退し、24年にサムスン電子が撤退し、25年にサムスン電子が撤退し、26年にサムスン電子が撤退し、27年にサムスン電子が撤退し、28年にサムスン電子が撤退し、29年にサムスン電子が撤退し、30年にサムスン電子が撤退し、31年にサムスン電子が撤退し、32年にサムスン電子が撤退し、33年にサムスン電子が撤退し、34年にサムスン電子が撤退し、35年にサムスン電子が撤退し、36年にサムスン電子が撤退し、37年にサムスン電子が撤退し、38年にサムスン電子が撤退し、39年にサムスン電子が撤退し、40年にサムスン電子が撤退し、41年にサムスン電子が撤退し、42年にサムスン電子が撤退し、43年にサムスン電子が撤退し、44年にサムスン電子が撤退し、45年にサムスン電子が撤退し、46年にサムスン電子が撤退し、47年にサムスン電子が撤退し、48年にサムスン電子が撤退し、49年にサムスン電子が撤退し、50年にサムスン電子が撤退し、51年にサムスン電子が撤退し、52年にサムスン電子が撤退し、53年にサムスン電子が撤退し、54年にサムスン電子が撤退し、55年にサムスン電子が撤退し、56年にサムスン電子が撤退し、57年にサムスン電子が撤退し、58年にサムスン電子が撤退し、59年にサムスン電子が撤退し、60年にサムスン電子が撤退し、61年にサムスン電子が撤退し、62年にサムスン電子が撤退し、63年にサムスン電子が撤退し、64年にサムスン電子が撤退し、65年にサムスン電子が撤退し、66年にサムスン電子が撤退し、67年にサムスン電子が撤退し、68年にサムスン電子が撤退し、69年にサムスン電子が撤退し、70年にサムスン電子が撤退し、71年にサムスン電子が撤退し、72年にサムスン電子が撤退し、73年にサムスン電子が撤退し、74年にサムスン電子が撤退し、75年にサムスン電子が撤退し、76年にサムスン電子が撤退し、77年にサムスン電子が撤退し、78年にサムスン電子が撤退し、79年にサムスン電子が撤退し、80年にサムスン電子が撤退し、81年にサムスン電子が撤退し、82年にサムスン電子が撤退し、83年にサムスン電子が撤退し、84年にサムスン電子が撤退し、85年にサムスン電子が撤退し、86年にサムスン電子が撤退し、87年にサムスン電子が撤退し、88年にサムスン電子が撤退し、89年にサムスン電子が撤退し、90年にサムスン電子が撤退し、91年にサムスン電子が撤退し、92年にサムスン電子が撤退し、93年にサムスン電子が撤退し、94年にサムスン電子が撤退し、95年にサムスン電子が撤退し、96年にサムスン電子が撤退し、97年にサムスン電子が撤退し、98年にサムスン電子が撤退し、99年にサムスン電子が撤退し、100年にサムスン電子が撤退し、101年にサムスン電子が撤退し、102年にサムスン電子が撤退し、103年にサムスン電子が撤退し、104年にサムスン電子が撤退し、105年にサムスン電子が撤退し、106年にサムスン電子が撤退し、107年にサムスン電子が撤退し、108年にサムスン電子が撤退し、109年にサムスン電子が撤退し、110年にサムスン電子が撤退し、111年にサムスン電子が撤退し、112年にサムスン電子が撤退し、113年にサムスン電子が撤退し、114年にサムスン電子が撤退し、115年にサムスン電子が撤退し、116年にサムスン電子が撤退し、117年にサムスン電子が撤退し、118年にサムスン電子が撤退し、119年にサムスン電子が撤退し、120年にサムスン電子が撤退し、121年にサムスン電子が撤退し、122年にサムスン電子が撤退し、123年にサムスン電子が撤退し、124年にサムスン電子が撤退し、125年にサムスン電子が撤退し、126年にサムスン電子が撤退し、127年にサムスン電子が撤退し、128年にサムスン電子が撤退し、129年にサムスン電子が撤退し、130年にサムスン電子が撤退し、131年にサムスン電子が撤退し、132年にサムスン電子が撤退し、133年にサムスン電子が撤退し、134年にサムスン電子が撤退し、135年にサムスン電子が撤退し、136年にサムスン電子が撤退し、137年にサムスン電子が撤退し、138年にサムスン電子が撤退し、139年にサムスン電子が撤退し、140年にサムスン電子が撤退し、141年にサムスン電子が撤退し、142年にサムスン電子が撤退し、143年にサムスン電子が撤退し、144年にサムスン電子が撤退し、145年にサムスン電子が撤退し、146年にサムスン電子が撤退し、147年にサムスン電子が撤退し、148年にサムスン電子が撤退し、149年にサムスン電子が撤退し、150年にサムスン電子が撤退し、151年にサムスン電子が撤退し、152年にサムスン電子が撤退し、153年にサムスン電子が撤退し、154年にサムスン電子が撤退し、155年にサムスン電子が撤退し、156年にサムスン電子が撤退し、157年にサムスン電子が撤退し、158年にサムスン電子が撤退し、159年にサムスン電子が撤退し、160年にサムスン電子が撤退し、161年にサムスン電子が撤退し、162年にサムスン電子が撤退し、163年にサムスン電子が撤退し、164年にサムスン電子が撤退し、165年にサムスン電子が撤退し、166年にサムスン電子が撤退し、167年にサムスン電子が撤退し、168年にサムスン電子が撤退し、169年にサムスン電子が撤退し、170年にサムスン電子が撤退し、171年にサムスン電子が撤退し、172年にサムスン電子が撤退し、173年にサムスン電子が撤退し、174年にサムスン電子が撤退し、175年にサムスン電子が撤退し、176年にサムスン電子が撤退し、177年にサムスン電子が撤退し、178年にサムスン電子が撤退し、179年にサムスン電子が撤退し、180年にサムスン電子が撤退し、181年にサムスン電子が撤退し、182年にサムスン電子が撤退し、183年にサムスン電子が撤退し、184年にサムスン電子が撤退し、185年にサムスン電子が撤退し、186年にサムスン電子が撤退し、187年にサムスン電子が撤退し、188年にサムスン電子が撤退し、189年にサムスン電子が撤退し、190年にサムスン電子が撤退し、191年にサムスン電子が撤退し、192年にサムスン電子が撤退し、193年にサムスン電子が撤退し、194年にサムスン電子が撤退し、195年にサムスン電子が撤退し、196年にサムスン電子が撤退し、197年にサムスン電子が撤退し、198年にサムスン電子が撤退し、199年にサムスン電子が撤退し、200年にサムスン電子が撤退し、201年にサムスン電子が撤退し、202年にサムスン電子が撤退し、203年にサムスン電子が撤退し、204年にサムスン電子が撤退し、205年にサムスン電子が撤退し、206年にサムスン電子が撤退し、207年にサムスン電子が撤退し、208年にサムスン電子が撤退し、209年にサムスン電子が撤退し、210年にサムスン電子が撤退し、211年にサムスン電子が撤退し、212年にサムスン電子が撤退し、213年にサムスン電子が撤退し、214年にサムスン電子が撤退し、215年にサムスン電子が撤退し、216年にサムスン電子が撤退し、217年にサムスン電子が撤退し、218年にサムスン電子が撤退し、219年にサムスン電子が撤退し、220年にサムスン電子が撤退し、221年にサムスン電子が撤退し、222年にサムスン電子が撤退し、223年にサムスン電子が撤退し、224年にサムスン電子が撤退し、225年にサムスン電子が撤退し、226年にサムスン電子が撤退し、227年にサムスン電子が撤退し、228年にサムスン電子が撤退し、229年にサムスン電子が撤退し、230年にサムスン電子が撤退し、231年にサムスン電子が撤退し、232年にサムスン電子が撤退し、233年にサムスン電子が撤退し、234年にサムスン電子が撤退し、235年にサムスン電子が撤退し、236年にサムスン電子が撤退し、237年にサムスン電子が撤退し、238年にサムスン電子が撤退し、239年にサムスン電子が撤退し、240年にサムスン電子が撤退し、241年にサムスン電子が撤退し、242年にサムスン電子が撤退し、243年にサムスン電子が撤退し、244年にサムスン電子が撤退し、245年にサムスン電子が撤退し、246年にサムスン電子が撤退し、247年にサムスン電子が撤退し、248年にサムスン電子が撤退し、249年にサムスン電子が撤退し、250年にサムスン電子が撤退し、251年にサムスン電子が撤退し、252年にサムスン電子が撤退し、253年にサムスン電子が撤退し、254年にサムスン電子が撤退し、255年にサムスン電子が撤退し、256年にサムスン電子が撤退し、257年にサムスン電子が撤退し、258年にサムスン電子が撤退し、259年にサムスン電子が撤退し、260年にサムスン電子が撤退し、261年にサムスン電子が撤退し、262年にサムスン電子が撤退し、263年にサムスン電子が撤退し、264年にサムスン電子が撤退し、265年にサムスン電子が撤退し、266年にサムスン電子が撤退し、267年にサムスン電子が撤退し、268年にサムスン電子が撤退し、269年にサムスン電子が撤退し、270年にサムスン電子が撤退し、271年にサムスン電子が撤退し、272年にサムスン電子が撤退し、273年にサムスン電子が撤退し、274年にサムスン電子が撤退し、275年にサムスン電子が撤退し、276年にサムスン電子が撤退し、277年にサムスン電子が撤退し、278年にサムスン電子が撤退し、279年にサムスン電子が撤退し、280年にサムスン電子が撤退し、281年にサムスン電子が撤退し、282年にサムスン電子が撤退し、283年にサムスン電子が撤退し、284年にサムスン電子が撤退し、285年にサムスン電子が撤退し、286年にサムスン電子が撤退し、287年にサムスン電子が撤退し、288年にサムスン電子が撤退し、289年にサムスン電子が撤退し、290年にサムスン電子が撤退し、291年にサムスン電子が撤退し、292年にサムスン電子が撤退し、293年にサムスン電子が撤退し、294年にサムスン電子が撤退し、295年にサムスン電子が撤退し、296年にサムスン電子が撤退し、297年にサムスン電子が撤退し、298年にサムスン電子が撤退し、299年にサムスン電子が撤退し、300年にサムスン電子が撤退し、301年にサムスン電子が撤退し、302年にサムスン電子が撤退し、303年にサムスン電子が撤退し、304年にサムスン電子が撤退し、305年にサムスン電子が撤退し、306年にサムスン電子が撤退し、307年にサムスン電子が撤退し、308年にサムスン電子が撤退し、309年にサムスン電子が撤退し、310年にサムスン電子が撤退し、311年にサムスン電子が撤退し、312年にサムスン電子が撤退し、313年にサムスン電子が撤退し、314年にサムスン電子が撤退し、315年にサムスン電子が撤退し、316年にサムスン電子が撤退し、317年にサムスン電子が撤退し、318年にサムスン電子が撤退し、319年にサムスン電子が撤退し、320年にサムスン電子が撤退し、321年にサムスン電子が撤退し、322年にサムスン電子が撤退し、323年にサムスン電子が撤退し、324年にサムスン電子が撤退し、325年にサムスン電子が撤退し、326年にサムスン電子が撤退し、327年にサムスン電子が撤退し、328年にサムスン電子が撤退し、329年にサムスン電子が撤退し、330年にサムスン電子が撤退し、331年にサムスン電子が撤退し、332年にサムスン電子が撤退し、333年にサムスン電子が撤退し、334年にサムスン電子が撤退し、335年にサムスン電子が撤退し、336年にサムスン電子が撤退し、337年にサムスン電子が撤退し、338年にサムスン電子が撤退し、339年にサムスン電子が撤退し、340年にサムスン電子が撤退し、341年にサムスン電子が撤退し、342年にサムスン電子が撤退し、343年にサムスン電子が撤退し、344年にサムスン電子が撤退し、345年にサムスン電子が撤退し、346年にサムスン電子が撤退し、347年にサムスン電子が撤退し、348年にサムスン電子が撤退し、349年にサムスン電子が撤退し、350年にサムスン電子が撤退し、351年にサムスン電子が撤退し、352年にサムスン電子が撤退し、353年にサムスン電子が撤退し、354年にサムスン電子が撤退し、355年にサムスン電子が撤退し、356年にサムスン電子が撤退し、357年にサムスン電子が撤退し、358年にサムスン電子が撤退し、359年にサムスン電子が撤退し、360年にサムスン電子が撤退し、361年にサムスン電子が撤退し、362年にサムスン電子が撤退し、363年にサムスン電子が撤退し、364年にサムスン電子が撤退し、365年にサムスン電子が撤退し、366年にサムスン電子が撤退し、367年にサムスン電子が撤退し、368年にサムスン電子が撤退し、369年にサムスン電子が撤退し、370年にサムスン電子が撤退し、371年にサムスン電子が撤退し、372年にサムスン電子が撤退し、373年にサムスン電子が撤退し、374年にサムスン電子が撤退し、375年にサムスン電子が撤退し、376年にサムスン電子が撤退し、377年にサムスン電子が撤退し、378年にサムスン電子が撤退し、379年にサムスン電子が撤退し、380年にサムスン電子が撤退し、381年にサムスン電子が撤退し、382年にサムスン電子が撤退し、383年にサムスン電子が撤退し、384年にサムスン電子が撤退し、385年にサムスン電子が撤退し、386年にサムスン電子が撤退し、387年にサムスン電子が撤退し、388年にサムスン電子が撤退し、389年にサムスン電子が撤退し、390年にサムスン電子が撤退し、391年にサムスン電子が撤退し、392年にサムスン電子が撤退し、393年にサムスン電子が撤退し、394年にサムスン電子が撤退し、395年にサムスン電子が撤退し、396年にサムスン電子が撤退し、397年にサムスン電子が撤退し、398年にサムスン電子が撤退し、399年にサムスン電子が撤退し、400年にサムスン電子が撤退し、401年にサムスン電子が撤退し、402年にサムスン電子が撤退し、403年にサムスン電子が撤退し、404年にサムスン電子が撤退し、405年にサムスン電子が撤退し、406年にサムスン電子が撤退し、407年にサムスン電子が撤退し、408年にサムスン電子が撤退し、409年にサムスン電子が撤退し、410年にサムスン電子が撤退し、411年にサムスン電子が撤退し、412年にサムスン電子が撤退し、413年にサムスン電子が撤退し、414年にサムスン電子が撤退し、415年にサムスン電子が撤退し、416年にサムスン電子が撤退し、417年にサムスン電子が撤退し、418年にサムスン電子が撤退し、419年にサムスン電子が撤退し、420年にサムスン電子が撤退し、421年にサムスン電子が撤退し、422年にサムスン電子が撤退し、423年にサムスン電子が撤退し、424年にサムスン電子が撤退し、425年にサムスン電子が撤退し、426年にサムスン電子が撤退し、427年にサムスン電子が撤退し、428年にサムスン電子が撤退し、429年にサムスン電子が撤退し、430年にサムスン電子が撤退し、431年にサムスン電子が撤退し、432年にサムスン電子が撤退し、433年にサムスン電子が撤退し、434年にサムスン電子が撤退し、435年にサムスン電子が撤退し、436年にサムスン電子が撤退し、437年にサムスン電子が撤退し、438年にサムスン電子が撤退し、439年にサムスン電子が撤退し、440年にサムスン電子が撤退し、441年にサムスン電子が撤退し、442年にサムスン電子が撤退し、443年にサムスン電子が撤退し、444年にサムスン電子が撤退し、445年にサムスン電子が撤退し、446年にサムスン電子が撤退し、447年にサムスン電子が撤退し、448年にサムスン電子が撤退し、449年にサムスン電子が撤退し、450年にサムスン電子が撤退し、451年にサムスン電子が撤退し、452年にサムスン電子が撤退し、453年にサムスン電子が撤退し、454年にサムスン電子が撤退し、455年にサムスン電子が撤退し、456年にサムスン電子が撤退し、457年にサムスン電子が撤退し、458年にサムスン電子が撤退し、459年にサムスン電子が撤退し、460年にサムスン電子が撤退し、461年にサムスン電子が撤退し、462年にサムスン電子が撤退し、463年にサムスン電子が撤退し、464年にサムスン電子が撤退し、465年にサムスン電子が撤退し、466年にサムスン電子が撤退し、467年にサムスン電子が撤退し、468年にサムスン電子が撤退し、469年にサムスン電子が撤退し、470年にサムスン電子が撤退し、471年にサムスン電子が撤退し、472年にサムスン電子が撤退し、473年にサムスン電子が撤退し、474年にサムスン電子が撤退し、475年にサムスン電子が撤退し、476年にサムスン電子が撤退し、477年にサムスン電子が撤退し、478年にサムスン電子が撤退し、479年にサムスン電子が撤退し、480年にサムスン電子が撤退し、481年にサムスン電子が撤退し、482年にサムスン電子が撤退し、483年にサムスン電子が撤退し、484年にサムスン電子が撤退し、485年にサムスン電子が撤退し、486年にサムスン電子が撤退し、487年にサムスン電子が撤退し、488年にサムスン電子が撤退し、489年にサムスン電子が撤退し、490年にサムスン電子が撤退し、491年にサムスン電子が撤退し、492年にサムスン電子が撤退し、493年にサムスン電子が撤退し、494年にサムスン電子が撤退し、495年にサムスン電子が撤退し、496年にサムスン電子が撤退し、497年にサムスン電子が撤退し、498年にサムスン電子が撤退し、499年にサムスン電子が撤退し、500年にサムスン電子が撤退し、501年にサムスン電子が撤退し、502年にサムスン電子が撤退し、503年にサムスン電子が撤退し、504年にサムスン電子が撤退し、505年にサムスン電子が撤退し、506年にサムスン電子が撤退し、507年にサムスン電子が撤退し、508年にサムスン電子が撤退し、509年にサムスン電子が撤退し、510年にサムスン電子が撤退し、511年にサムスン電子が撤退し、512年にサムスン電子が撤退し、513年にサムスン電子が撤退し、514年にサムスン電子が撤退し、515年にサムスン電子が撤退し、516年にサムスン電子が撤退し、517年にサムスン電子が撤退し、518年にサムスン電子が撤退し、519年にサムスン電子が撤退し、520年にサムスン電子が撤退し、521年にサムスン電子が撤退し、522年にサムスン電子が撤退し、523年にサムスン電子が撤退し、524年にサムスン電子が撤退し、525年にサムスン電子が撤退し、526年にサムスン電子が撤退し、527年にサムスン電子が撤退し、528年にサムスン電子が撤退し、529年にサムスン電子が撤退し、530年にサムスン電子が撤退し、531年にサムスン電子が撤退し、532年にサムスン電子が撤退し、533年にサムスン電子が撤退し、534年にサムスン電子が撤退し、535年にサムスン電子が撤退し、536年にサムスン電子が撤退し、537年にサムスン電子が撤退し、538年にサムスン電子が撤退し、539年にサムスン電子が撤退し、540年にサムスン電子が撤退し、541年にサムスン電子が撤退し、542年にサムスン電子が撤退し、543年にサムスン電子が撤退し、544年にサムスン電子が撤退し、545年にサムスン電子が撤退し、546年にサムスン電子が撤退し、547年にサムスン電子が撤退し、548年にサムスン電子が撤退し、549年にサムスン電子が撤退し、550年にサムスン電子が撤退し、551年にサムスン電子が撤退し、552年にサムスン電子が撤退し、553年にサムスン電子が撤退し、554年にサムスン電子が撤退し、555年にサムスン電子が撤退し、556年にサムスン電子が撤退し、557年にサムスン電子が撤退し、558年にサムスン電子が撤退し、559年にサムスン電子が撤退し、560年にサムスン電子が撤退し、561年にサムスン電子が撤退し、562年にサムスン電子が撤退し、563年にサムスン電子が撤退し、564年にサムスン電子が撤退し、565年にサムスン電子が撤退し、566年にサムスン電子が撤退し、567年にサムスン電子が撤退し、568年にサムスン電子が撤退し、569年にサムスン電子が撤退し、570年にサムスン電子が撤退し、571年にサムスン電子が撤退し、572年にサムスン電子が撤退し、573年にサムスン電子が撤退し、574年にサムスン電子が撤退し、575年にサムスン電子が撤退し、576年にサムスン電子が撤退し、577年にサムスン電子が撤退し、578年にサムスン電子が撤退し、579年にサムスン電子が撤退し、580年にサムスン電子が撤退し、581年にサムスン電子が撤退し、582年にサムスン電子が撤退し、583年にサムスン電子が撤退し、584年にサムスン電子が撤退し、585年にサムスン電子が撤退し、586年にサムスン電子が撤退し、587年にサムスン電子が撤退し、588年にサムスン電子が撤退し、589年にサムスン電子が撤退し、590年にサムスン電子が撤退し、591年にサムスン電子が撤退し、592年にサムスン電子が撤退し、593年にサムスン電子が撤退し、594年にサムスン電子が撤退し、595年にサムスン電子が撤退し、596年にサムスン電子が撤退し、597年にサムスン電子が撤退し、598年にサムスン電子が撤退し、599年にサムスン電子が撤退し、600年にサムスン電子が撤退し、601年にサムスン電子が撤退し、602年にサムスン電子が撤退し、603年にサムスン電子が撤退し、604年にサムスン電子が撤退し、605年にサムスン電子が撤退し、606年にサムスン電子が撤退し、607年にサムスン電子が撤退し、608年にサムスン電子が撤退し、609年にサムスン電子が撤退し、610年にサムスン電子が撤退し、611年にサムスン電子が撤退し、612年にサムスン電子が撤退し、613年にサムスン電子が撤退し、614年にサムスン電子が撤退し、615年にサムスン電子が撤退し、616年にサムスン電子が撤退し、617年にサムスン電子が撤退し、618年にサムスン電子が撤退し、619年にサムスン電子が撤退し、620年にサムスン電子が撤退し、621年にサムスン電子が撤退し、622年にサムスン電子が撤退し、623年にサムスン電子が撤退し、624年にサムスン電子が撤退し、625年にサムスン電子が撤退し、626年にサムスン電子が撤退し、627年にサムスン電子が撤退し、628年にサムスン電子が撤退し、629年にサムスン電子が撤退し、630年にサムスン電子が撤退し、631年にサムスン電子が撤退し、632年にサムスン電子が撤退し、633年にサムスン電子が撤退し、634年にサムスン電子が撤退し、635年にサムスン電子が撤退し、636年にサムスン電子が撤退し、637年にサムスン電子が撤退し、638年にサムスン電子が撤退し、639年にサムスン電子が撤退し、640年にサムスン電子が撤退し、641年にサムスン電子が撤退し、642年にサムスン電子が撤退し、643年にサムスン電子が撤退し、644年にサムスン電子が撤退し、645年にサムスン電子が撤退し、646年にサムスン電子が撤退し、647年にサムスン電子が撤退し、648年にサムスン電子が撤退し、649年にサムスン電子が撤退し、650年にサムスン電子が撤退し、651年にサムスン電子が撤退し、652年にサムスン電子が撤退し、653年にサムスン電子が撤退し、654年にサムスン電子